

教職課程 概要（新潟青陵大学短期大学部）

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

1. 取得可能な教員免許状

幼児教育学科 幼稚園教諭 2 種免許状

2. 教員養成の目標

新潟青陵大学短期大学部は、「日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する」という建学の精神をもとに、以下のような教育理念を掲げています。

■ 幼児教育学科 教育理念

「ここ半世紀で我が国の家庭や近隣社会の在り方は大きく変化してきた。そのことは子ども達の心身の発達に強く影響を及ぼし、かつ、保護者の考えにも変化をもたらしている。このような状況に対応しうる、一段と高いレベルの資質を持った保育者の育成を目指す。」

新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科の教職課程では、こうした建学の精神・教育理念を受けて、以下のような教員養成の目標を掲げています。

1. 保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。
2. 社会から要請される保育を主体的かつ創造的に実践することができる。
3. 人権尊重の精神と礼節を重んじ、豊かな人間性を備えている。

3. 教員養成の計画

履修年次		到達目標
年次	学期	
1年次	前期	保育に関わる基礎的な知識・技能を修得する。
		実習に関わるルールを概観し、社会人としての礼節の基礎を身につける。
	後期	保育に関わる基礎的な知識・技能を修得する。
		保育における様々な表現を学び、感性や共感性を身につける。
2年次	前期	保育に関わる知識や技能を、実習の機会を得ながら統合し、理解を深める。
		人権尊重の精神を学ぶとともに、保育における問題を見つけ主体的に解決する手法を学ぶ。
	後期	これまでに身につけた知識・技能を振りかえり、保育者としての実践力を深化する。
		保育に関する問題解決の手法を、自分のテーマで実践し、まとめ、発表する。

2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

1. 組織及び教員の数

・ [学生数・教職員数（大学概要）](#)

2. 各教員が有する学位及び業績

[・教員紹介](#)

[・research map（データベース型研究者総覧）](#)

3. 各教員が担当する授業科目

■領域及び保育内容の指導法に関する科目

専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目
専任	教授	峰本 義明	幼児と言葉 言葉指導法
専任	教授	青野 光子	幼児と健康 健康指導法 表現（身体）指導法
専任	准教授	栄長 敬子	幼児と表現
専任	准教授	野口 雅史	幼児と表現 表現（音楽）指導法
専任	准教授	梨本 竜子	環境指導法
専任	准教授	福岡 龍太	幼児と表現 表現（造形）指導法
専任	准教授	相澤 里美	幼児と人間関係 人間関係指導法 保育実践と環境デザイン
専任	助教	小柳 桃子	人間関係指導法

■教育の基礎的理解に関する科目

専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目
専任	教授	宮崎 隆穂	教育心理学 発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ 教育相談 保育・教職実践演習
専任	教授	仲 真人	教育原理(教育の制度・経営を含む) カリキュラム論 教育方法論 保育・教職実践演習
専任	准教授	梨本 竜子	保育者論 幼稚園教育実習 保育・教職実践演習
専任	准教授	時本 英知	特別支援保育論
専任	准教授	相澤 里美	幼児理解 保育・教職実践演習
専任	准教授	上原 由美	幼稚園教育実習 保育・教職実践演習（幼稚園）
専任	特任助教	小柳 桃子	幼稚園教育実習

3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

[・シラバス検索（大学・短大）](#)

4. 卒業者の教員免許状の取得の状況及び教員への就職の状況に関すること

卒業年 (3月卒)	幼稚園教諭2種免許状の取得人数	幼稚園教諭採用数 (非常勤含む)
2019	133	66
2020	117	57
2021	129	64
2022	126	71
2023	122	54
2024	95	48

5. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

1. 教育現場におけるボランティア活動

1. 保育支援ボランティア活動

新潟県立がんセンターの小児病棟内の保育室・外来などで週1回のペースで保育支援ボランティア活動を行っています。

2. 幼稚園サポーター活動

隣接する幼稚園などからの依頼で、各種行事の支援・運動会などの企画協力・支援をボランティアとして行っています。

2. 実践的な教育活動

模擬授業

教材研究をして指導案を作成し、お互いを対象に模擬授業を実施し、検討の場を設けています。

3. 実習受け入れ先・教育委員会等との連携

実習連絡協議会の開催

幼・小・中・特別支援学校において、授業補助、個別指導、学校行事の補助等を行います。週1回、全日又は半日のペースで、半年間程度継続します。